



ハイブリット3輪カート製作した荻野さん（左）と石塚さん（右）

「ハイブリット3輪カート」を製作

館林商工高3年 石塚裕気さん（大佐貫）と荻野真吾さん（川俣）

県立館林商工高等学校の生産システム科機械コースで学ぶ5人メンバーが燃料電池と太陽電池を使用したハイブリット3輪カート製作に成功しました。この5人のメンバーに本町出身の石塚裕気さんと荻野真吾さんがいます。

授業の一環だった課題研究のテーマを選び、担当の河内康昭教諭の指導で昨年6月から製作を始めました。地球温暖化や大気汚染が深刻な社会問題化する中で、高温の有害排出ガスも二酸化炭素も出ない発電ユニット、燃料電池と太陽電池のクリーンなエネルギーを利用して製作されました。

この3輪のハイブリットカーは、昨年度の燃料電池に比べて、太陽電池を加えたことにより電気の供給を大幅に上げ、スピードを上げることを目標に、毎日、メンバーと一緒に放課後遅くまで残って作業をし、試行錯誤の末1月中旬に完成しました。

「始めるきっかけは、環境問題が叫ばれる世の中で、環境により燃料電池の原理や必要性に興味を持ったからです。

この課題研究を通して環境問題対策の重要性を学ぶとともに、ものを作る大変さを改めて実感しました。この経験を就職にいかしたいと思います」と石塚さん。

荻野さんは「今まで課題研究をやってきて、ギアボックスの製作は問題ばかり発生して大変でした。とても苦労しましたが、自分にとっていい経験になりました。無事終わることができてよかったです」と話していました。

2人は「放課後遅くまで残った作業は大変だったけど、みんなと一緒に楽しかったです。反省点はたくさんあるけど、今まで頑張ってきたので完成したときはとてもうれしかったです」と完成した喜びを笑顔で話していました。